

小森はるか+瀬尾夏美「波のした、土のうえ」

2017年12月12日(火)～2018年2月4日(日)

陸前高田に移り住んだ若手作家2人が表現する「人々の記憶」

巡回展「波のした、土のうえ」は、映像作家の小森はるかと画家で作家の瀬尾夏美が、震災を契機として岩手県陸前高田市に移り住み、震災後の暮らしに寄り添い、人々の話を聞きながら制作した「記録」としての作品を紹介するものです。

2015年陸前高田市での開催を皮切りに、盛岡市(岩手県)、神戸市(兵庫県)、仙台市(宮城県)、福島市、東京都、尼崎市(兵庫県)、新潟市と、近現代で災害の記憶のある土地を中心に全国を巡回しています。

本展は、陸前高田の風景を記録した絵画や写真、そして人々から聞き取った言葉や作家2人が感じたテキスト、そして陸前高田のドキュメンタリー映像作品を軸に構成されます。

「私たちが陸前高田で拾い集めてきたものをさまざまな土地へと運びだし、展覧会という場のなかで対話し、ことばをすこし、聞かせてもらいたい。すると、現在の日本の、世界での一片が浮き上がってくるかもしれない。」(小森はるか+瀬尾夏美ウェブサイトより)

瀬尾夏美は2017年横浜トリエンナーレにて広島・長崎の被爆者など戦争体験者たちが語った言葉の集積を作品として発表。人の深い傷を作品化することでその共有の可能性を探る若手作家2人が、広島に陸前高田の記憶を届けます。

【会期】 2017年12月12日(火)～2018年2月4日(日)

【開館時間】 10:00～17:00

【休館日】 月曜日(1月8日を除く)、1月9日(火)、
年未年始(12月27日～1月1日)

【会場】 広島市現代美術館 地下1階ミュージアムスタジオ

【観覧料】 無料

作家紹介

小森はるか+瀬尾夏美

映像作家の小森と、画家で作家の瀬尾によるアートデュオ。2011年3月末、ふたりで沿岸部のボランティアに訪れたことをきっかけに結成。2012年4月に岩手県陸前高田市へ移住。沿岸の陸前高田市を中心に、移り変わる風景や人びとのことばの記録を続けている。また、記録を未来や遠くの人に受け渡すための表現について考えながら、多様なアート表現をつくり出している。 <http://komori-seo.main.jp>

小森はるか／1989年静岡県生まれ。東京芸術大学美術学部先端芸術表現科卒業、同大学院修士課程修了。

瀬尾夏美／1988年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部先端芸術表現科卒業、同大学院修士課程油画専攻修了。

●関連プログラム/てつがくカフェ「二重のまち」から考える

瀬尾夏美のテキストによる作品「二重のまち」の朗読会のあと、対話を行います。

2018年1月14日(日) 13:00-16:30

ファシリテーター：西村高宏(福井大学 医学部 准教授) + 近田真美子(福井医療大学 看護学科 准教授)



《波のした、土のうえ—置き忘れた声を聞きに行く》2014年 [映像作品]



巡回展「波のした、土のうえ」in 盛岡 (2015年、Cyg art gallery) 展示風景